



【キリストを中心とした夫婦と家庭の姿】

聖書本文：使徒の働き18章1-3・24-26節・ローマ16章3-5節（新改訳2017版） 説教者：鄭南哲牧師
(Rev. Jung nam-chul)

【聖書本文箇所】「18:1その後、パウロはアテネを去って、コリントに行った。2 そこで、ポントス生まれでアキラという名のユダヤ人と、彼の妻プリスキラに出会った。クラウディウス帝が、すべてのユダヤ人をローマから退去させるように命じたので、最近イタリアから来ていたのである。パウロは二人のところに行き、3 自分も同業者であったので、その家に住んで一緒に仕事をした。彼らの職業は天幕作りであった。[24-26]24 さて、アレクサンドリア生まれでアポロという名の、雄弁なユダヤ人がエペソに来了。彼は聖書に通じていた。25 この人は、主の道について教えを受け、霊に燃えてイエスのことを正確に語ったり教えたりしていたが、ヨハネのパプテスマしか知らなかった。26 彼は会堂で大胆に話し始めた。それを聞いたプリスキラとアキラは、彼をわき(彼らの家)に呼んで、神の道をもっと正確に彼に説明した。[ローマ 16:3-4]3 キリスト・イエスにあって私の同業者、プリスカとアキラによろしく伝えてください。4 二人は、私のいのちを救うために自分のいのちを危険にさらしてくれました。彼らには、私だけでなく、異邦人のすべての教会も感謝しています。5 また彼らの家の教会によろしく伝えてください。」

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！ 続く緊急事態の宣言の中一週間の間もみなさんお元気でしたか。お変わりなく、主の平安のうちに日々過ごせましたか。

アメリカのゲーリーチャプマン博士が書いたベストセラー『愛を伝える5つの方法』というシリーズの本では、愛こそ、結婚、夫婦、家族の土台となる事を知らない人は世の中誰一人もいないですが、その愛が夫婦の間に、子どもや家族に実際伝わり体感させるためには、お互いが違って伝わる愛の方法を知らなければならぬ教えてくれています。その方法の愛の5つが「肯定的な言葉・一緒に忠実した時間(クオリティ・タイム)を過ごす事・必要な贈り物・スキンシップ(接触)・尽くす(助ける・仕える)行動」であります。もう夫婦の間で、家族でご存じの方々も多いかも知れませんが、みなさんは夫婦の間に、親子の間にどのようにされた時に、愛がよく伝わるのか、最近愛がよく伝わっているのかご家族で礼拝の後でも是非分ち合えるようにお願いします。

今日は聖書の中で神に祝福される大いに用いられた夫婦とその家庭の姿を、聖書を通して共に学び、我らの夫婦、家族も一層主に祝福され、用いられる家庭となっていけるようにお願い申し上げます！

聖書ではあまり目立たなかったのですが、とても祝福され、用いられたアキラ(アクラ:新改訳3版)とプリスカ(プリスキラ)の夫婦、この家庭についてです。

みなさんはこのアキラとプリスカ(プリスキラ)の夫婦についてよくご存知でしょうか。

実はこのアキラとプリスカの夫婦は新約聖書に現われているキリスト者の夫婦の中でとてもモデル的な夫婦の姿、家庭の姿でもあります。使徒パウロはこのアキラとプリスカの夫婦を心から愛し、信頼していた福音の、主の教会の同業者たちだと認めています。

1. 我らの出会いは決して偶然ではなく、神の摂理と導きによる。

今日の本文使徒の働き18章1節-3節にはパウロがアキラとプリスカ(プリスキラ)の夫婦と初めて出会った場面が紹介されています。使徒パウロは2回目の伝道の旅中、テサロニケとベレヤから一人でアテネを通過して、コリントに来ました。そこで使徒パウロは神の深い摂理と導きの中でアキラとプリスカこの夫婦と出会う事になります。本来、アキラとプリスカの夫婦はコリントの町とはまったく関係のない人たちでした。もともとこの夫婦はローマで暮らしながら、真実なキリスト者として、ローマの教会でよく仕えていた教会の中心的な信仰の夫婦でしたが、本文2節に書いてあるように、AD49年当時ローマ皇帝だったクラウディウスが、ローマで起こった‘クレストウス(Chrestus)暴動(ぼうどう)事件’がユダヤ人たちのせいだと見なし、ローマに住んでいたすべてのユダヤ人をローマから退去(たいきょう)させる命令を下し、全てのイスラエルのユダヤ人と共にこのアキラ夫婦も急に追い出されたわけでありました。

急に自分の家や職場など全てを置いてローマから追い出されたため、これからどこへ行けば良いのか迷っていたはずのこのアキラとプリスカ夫婦でしたが、きっと主の御助けとお導きを祈り求めつつ、自分たちの仕事であった天幕(テント)を作る仕事をよく生かせるコリントという都市を選んで来られたと思われれます。当時コリントは港の町であり、産業と貿易が活発(かつぱつ)な町であり、今日のオリンピックの全身でもある2年毎でイツミアン競技大会が開催されていた町だったので、どんな都市よりも、天幕の必要と需要(じゅよう)があるのではないかとし、このコリントの町を選び定着したばかりでした。

神はこのコリントの町で、このアキラとプリスカ夫婦と後パウロをコリントに導き出させ、アキラとプリスカの家でパウロが共に暮

らしながら、力を合わせキリストの福音を伝えることに協力し仕えた結果、コリントの町で、教会が誕生されるようにして用いて下さったことが分かります！それが初代教会の中よく聖書に出ているコリント教会であることが分かります。パウロとアキラとプリスカ夫婦はそのコリント教会の中で共に1年半ぐらい一緒に働き、大いに用いられました。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！わたしたちは全ての出会いにはたまたまとか、偶然ということとは決してありません！後で具体的に学びますが、このアキラとプリスカのお互いの出会いも、そして、夫婦になったこのお二人とパウロの出会いも、お互いがまったく関係のないこのコリントで出会ったことも、たまたまではなく、深い神の摂理とご計画の中で導かれたことであることが分かります！コリントで神から離れ、失われさまよっている多くのたましいの救いとキリストの弟子を生み出す為、主の教会を建て上げるご計画の中で、神は使徒パウロを東から、アキラとプリスカこの夫婦を西から移させ、このコリントの町に導かれ、出会わせて下さった！深い神の摂理とご計画があったゆえであることが分かります！

夫婦のみなさん！今みなさんの隣りにいるご主人を見て見て下さい。みなさんの妻の姿をご覧ください。我らの一度の人生のこの夫と、この妻と出会ったのはたまたまでも、偶然でも決してありません。お二人が出会い、このように夫婦となられたのは神の深い摂理とご計画の中で導かれ、出会わせて下さったことを信じていますか。是非その真実を忘れないで頂きたいと願います！我らの人生を愛され、豊かに祝福し大いに用いようとしておられる神様のご計画のゆえに、我らが夫婦として出会い、家族として下さったことを忘れないで頂きたいと思えます。つまり、ただの仕事ばかり、お金を儲けるため、立派な家と車を買ってうちら家族だけただ幸せに生きる目的だけの程度ではないことということでしょう！

一度の人生の中、まったく関連のなかったこの小牧の地で、神は教会の信仰の兄弟姉妹、神の家族として、我らを出合わせて下さったのには、かならず神の深い摂理と素晴らしい目的がある為であります。東西南北からまったく関係のなかった我らを導き、出会わせて下さったのは、我らを通してなさろうとする神の素晴らしいご計画がある為、我らのここのクリスチャンプレイズチャーチに出合わせ、集めさせて下さったのを覚えて置きましょう。

ローマ教会で中心的に熱心に神の為に仕えて来たこのアキラとプリスカ夫婦であったのにも関わらず、思わぬ試練に直面した時、その夫婦がずっと頑張って忠実に働きながら積み上げて来た生活の基盤、職場、人間関係が一瞬失ってしまう苦しみの中さらされたことに、このアキラとプリスカ夫婦は聖書とこにも、神にうたがったり、つぶやいたりせず、神が許された事には神の深い目的と摂理があり、神の導きが必ずあると揺るがず信じ進んでいたご夫婦の姿でした！これがまさに神様への絶対信仰を持っている夫婦の姿ではないでしょうか。先週コラムにも書いたように、パズルとレゴブロックには共通点があります。最初にピースを合わせ始める時点では、何が何だか分からないという点です。どのピースも同じように見えるからです。しかし、全体の完成図や絵を見ながら、ピースをあちこち動かしているうちぴったりするものが見つかり、次第に完成品に近づいていきます。そして、時間がかかるといふ共通点もあります。すぐには先が分からず、混乱し続いても、焦らず、あきらめないうちで、余裕をもって根気よく続けると、ようやく完全な姿を見ることが出来ます。その面で人生も同じではないでしょうか。近視眼(きんしがん)的な我らも人生の中思わぬ試練に巻き込まれると、今なぜこのような苦しみが続くのか分からない時があります。自分に出来ることが何もないように見え、神様がおられないかのようにも感じたりする時もあるかも知れません。私たちは、あせてすぐ完成した結果と答えだけを求めようとする傾向がありますが、神様はすべてに御心のうちにご意図とご計画を持って統べ治めて導かれるお方です。神にとって、いきなり、突然も、たまたまも、偶然はありません！ですからしばらく希望が見えないから失望するのはまだ早いではありませんか。

自身の罪のせいとか、過ちで招いた苦しみではなく、神の御前で何の悪いことをしてもないのに、受ける試練や苦しみの時には、必ず、我らに対する特別な神のご計画とお導きがあるのを信じてください。

このアキラとプリスカ夫婦は何の悪いことをしてなかったのにもかかわらず、ローマから追い出されて何のつながりもない、なれてないこのコリントの町にまで来ていました！なぜコリントだったのでしょうか。人はこれからの人生の先と展開、その理由を全部分らない者ですが、神は彼らの足元を計画され導かれました！

コリント！そこで、彼らの人生、生き方を変える歴史的な出会いが待っていました！神は備えて下さっていたからです。アキラとプリスカ夫婦が使徒パウロとの出会い！それによってパウロと一緒にコリントの教会を立て上げ、一年半の間、共に協力しつつ仕えるうちに、この夫婦を神は想像もしてないはるかに期待を超えて素晴らしく用いられました！ローマではローマの教会

ただだったかも知れませんが、これからは異邦人の宣教のために！神はパウロだけではなく、この夫婦をも用いて下さったのです。その後、アキラとプリスカ夫婦はパウロにとってなくてはならないキリストの福音宣教の素晴らしい同労者の関係になるほど大いに用いられました。使徒の働き18章18-19節をご覧になると、コリント教会が建てられるまで1年半、使徒パウロと共に協力して働いたアキラとプリスカ夫婦は、その後、エペソまでも一緒に同行(どうこう)し、パウロが3回目の伝道旅行(りょこう)の為、エペソから離れて行って来るまで、この夫婦はエペソで続けてとどまり、エペソ教会が建てられるようにその土台を作ったことが分かります。その後、ローマ皇帝だったクラウディウスがなくなってから、ローマに戻り、ローマで続けて自分たちの家を教会としながら仕えていたことが分かります。

この夫婦の献身的な生き方は本当にすばらしく今日の我々に感動とチャレンジを与えてくれます！具体的にどんな面においてなのか三つの側面で考えてみたいと思います。

2.アキラとプリスカ夫婦と家庭の見習うべき姿

①社会的身分と背景の壁を超え信仰と愛で結ばれた新しい夫婦と家庭の姿

今日の本文使徒の働き18章2節で夫であるアキラは“ポントス(今日のトルコ北西黒海(ほくせいこっかい)を沿った地域)生まれのユダヤ人”だと紹介していますが、ユダヤ人であるのに、‘アキラ’という名前は当時ローマ式名前だったというのとはとても不思議なところでは。実は、アキラはローマ人であったアキラという家門の奴隷だったとみられます。ユダヤ人奴隷がのちに自由の身になった時に、その主人の名前をつける慣習に従ったので、主人アキラの名前を名付けたのではないかとみられる聖書学者たちの主張にわたくしも同意します。なので、当時身分社会の中、アキラは当時、みじめな奴隷出身の身分の人でした！反面妻プリスカという名前は当時ローマで地位が高い貴族家門の名前でした。ですからおそらく、プリスカは自分の貴族の身分を捨てて、奴隷出身のアキラと出会って結婚したという事が各お名前を通してでも十分推測が出来ます。(「プリスカ(キラ)のとアキラ」順でプリスカの名前が聖書でも先に書かれている場合が多い理由として、教会でもっと忠実に働いたのは、プリスカだったからという主張もありますが、当時社会的な身分が高かったのが妻プリスカだったため、先に記されているともよく主張されています。)

とにかく、愛するクリスチャンプレイズ教会の信仰の家族のみなさん！

当時生れながら既に運命的に決まっていた社会的な制度、身分、立場など越えられないこの壁をこのアキラとプリスカ夫婦はどうやってその全てを乗り越え夫婦となることが出来たのでしょうか。2人には一つ共通があったからではないでしょうか。いやこの2人に共通は一つしかありませんか。それはキリストを信じる信仰と愛でした！キリストにあってはみんな神に造られ、神に愛され、救い主イエスキリストあってみんなが尊い存在であり、等しい者である！キリストを信じる信仰にあってみんな愛し合う神の家族であり兄弟姉妹であるというキリストへの信仰と神の愛！奴隷であっても、普通の庶民であっても、貴族で会ってもどんな身分で、出生で、人種の異邦人であっても、神の前ではみんな同じ罪人であり、キリストを信じる信仰によって救われるべき者であるので、信仰の共同体である主の教会の中では、教会外での立場や身分などは決して重要ではなかった初代教会であったことを体表的に証して下さる夫婦！だったと信じます。

歴史の記録によると、ますますローマ社会と家庭が道徳的に、性的に淫乱で墮落し続けていた時、イエスキリストを信じるクリスチャンの家庭の人、信仰の家庭で育ったクリスチャンたちは、性的な純潔を命のように守り、どんな部類の人たちよりも真実で、誠実であったのでとても良い評判があったという記録があります。実は、キリスト者(今日クリスチャン)と呼ばれたのは、教会の外にいた人々から、キリストを信じる人たちは、まさにイエスキリストのようだとその人格、品性、生き方が当時社会の人々と違ったからであります。

とにかく、アキラとプリスカにとっては世と社会が大切だと思い込んでいた価値観と基準ではなく、その信仰と愛によって真実なクリスチャン夫婦となり、お互いを一つに結ばせてくださるキリストの愛でお互いを尊重し、仕え合い、愛し合えたものではありませんか。

②神様と兄弟姉妹に向かって家の門が開かれていたアキラとプリスカ夫婦の姿

そして、神様の導きによって新しい地であるコリントに来て、使徒パウロと出会い、この夫婦はパウロを自分たちの家に泊ませ、共に食事も、神の働きも共に奉仕もしていたことが分かります。今もですが、むかしも見知らぬ人と一緒に住むということ、共に継続に食事をする事は簡単なことではないでしょう。しかし、このアキラとプリスカ夫婦の家庭は開いた家庭でした！そして、言葉だけではなく、実際キリストにある兄弟愛を生活上で常実践していた夫婦、家庭であったことが分かります。後、このコリントで、エペソでも、主の教会を建て上げることに、アキラとプリスカの家庭が、その土台となったことが分かります。

まさにみなさんがよくご存じのこのアキラとプリスカの家庭は家の教会の姿でした！

アキラとプリスカ夫婦は一緒に周りの兄弟姉妹の必要にもっと愛と関心を持って仕えていたカプルに間違いないでしょう。我々も国、育ち環境と背景、学歴、生活経済状況など、お互いがとても違いますが、イエスキリストを信じる信仰と愛を中心とした夫婦と家族として、みんな一つの新しい信仰の家族、神の愛の共同体として、等しく何の差別も、区別もなく、共に愛し合い、必要に温かく関心と愛を持って省みながら、仕え合う全クリスチャンプレイズチャーチの夫婦と家族となりますように主イエスキリストの御名によってお祈り申し上げます。アーメン！

②自分の家を主の教会とさせ、神様への献身と愛の仕えを実践した夫婦

アキラとプリスカ夫婦は共に天幕を作る本業、仕事を持っていたことが分かります。産業と貿易、オリンピック見たいな大きなスポーツ大会が行われたコリントで当然ローマから見たこの夫婦が作る天幕に対する需要が多かったはずなので、常に忙しかつたのではないのでしょうか。夫婦ともにいつも疲れる時も多かったと思います。誠実に働いた結果、収入も結構あったのではないのでしょうか。もしも、このアキラとプリスカ夫婦が、社会で大切だと思われる価値観、つまり、お金を儲けることがこの夫婦の人生の目的だったならば、パウロと共に福音宣教の為に、神の御言葉を教え伝えるために、家の教会を開く何かするような暇はずっとなかったはずでしょう。

ところが、聖書でこのアキラとプリスカ夫婦を追跡して見ると、この夫婦はコリントで、エペソで、その後ローマにもどっても、とどまるどんな地域でも、彼らの家を開いて、家の教会として集まる場所となったことが分かります。コリントでパウロが彼らの家で泊まっていたので、自然にここが集まりの中心になったとも思われます。

パウロはこの夫婦がエペソにいる時もローマにいる時も彼らの家にある教会を言及します(第一コリント 16:19;ローマ 16:5)。

「アジアの諸教会がよろしくと言っています。アキラとプリスカ、また彼らの家の教会が主にあって心から、あなたがたによろしく言っています。」(コリント人への第一の手紙16章19節)

アキラとプリスカ夫婦がそのように仕えたのはなぜだったと思いますか。みんなに尊敬や認められたからでしょうか。そうではなく、アキラとプリスカこの夫婦は自分たちがまず、神の大なる愛と恵みのゆえに、イエスキリストを信じる信仰によって救われたことに感激し、喜んでいたのでしょう！そして、救われるまで、二人が家族の反対や社会からの冷たい視線があっても、夫婦まで信仰の家庭を気づき上げることが出来たのは、すでに信仰の家庭の家が家の教会として自分たちを温かく受け入れ、食べさせ、慰め、祈りつつ支え助けてくれた愛の負い目を体験して来たから、結婚し夫婦となったこの夫婦も、自分の家もそのようなところとして用いられることを切に願っていたからそう出来たのではありませんか。

実は、この姿はアキラとプリスカ夫婦だけではなく、初代エルサレム教会が建てられる時から、家の教会は普通になり、多くの人々が救われるきっかけになっていたことが分かります。使徒の働き2章46-47節「46そして、毎日心を一つにして宮に集まり、家々でパンを裂き、喜びと真心をもって食事をともにし、47神を賛美し、民全体から好意をもたれていた。主は毎日、救われる人々を加えて一つにしてください。」

神の御力により救われ、人生が変わったこの夫婦が、神の慰めがあり、神の愛が溢れる場所として自分の家が、家族が用いられる事を胎児に望んでいたからではないのでしょうか。この世の中で疲れた人々が小さな神の国のように神を信じる信仰の家族と愛し合う、祈り合う、交われる祝福の源になることをいつも祈っていたからではないのでしょうか。

彼らの家は信徒たちと救われた人々の集まる場所としてよく使われました。その意味で彼らは自分たちの持ち物をその家の教会の集まりのために惜しまずに分け与え仕えたという意味ともなるでしょう。

神の御前で、いくらお金を儲けても、たくさんの財産があっても、自分と自分の家族のためにしか使っていない人もいれば、一生懸命働いて手に入れたものや持っている財産を、神の愛として、分け与え、人を助け、救われるために仕える人もいます！

みなさんはどちらの夫婦、家庭でしょうか。夫婦のどっちかが反対したり、嫌がる思いを持つなら、やりたくてもそれはできません！夫婦が一つの心と信仰となる家庭こそ、出来る証しと実ではありませんか。ですから、夫婦はずっと向き合う関係ではなく、神からの一つの夢、ビジョン、使命に向かって手をつないで一緒に進み行く関係であることも正しいではありませんか。

これ以上の家庭の祝福であるのでしょうか。ほとんどの世にある人たちは自分の家の自分たちの空間として閉ざしています。

しかし、そもそも初代教会のクリスチャンの方々は、このアキラとプリスカ夫婦のように、神に向かって、兄弟姉妹、神の家族に向かっての家庭の門が開かれていたことが分かります。家庭でも神を礼拝するところとなるように！そして、自分たちが持っている

もの、自分の家がさらに多くの魂が救われる神の御業を体験する場所として、神の愛を実際に体験出来る場所として神の愛を持って分ち合い、仕えられ、用いられるところとして用いられることも願い求めていたので、信仰の家庭がどんな迫害や艱難の中でも耐え忍び、さらなる神の祝福を蓄える器となっていたことが分かります！

アクラとプリスカ夫婦はよく移ることになっても、いたるところの家を教会として仕えていたので、さらに満たされて行く体験をきつとやっていたと信じます。実際この夫婦だけではなく、初代教会の信徒たちの中で家の教会として集まったところが多かったことが聖書を通して分かります。(コロサイ人への手紙4:15-「どうか、ラオデキヤの兄弟たちに、またニンパと彼女の家にある教会に、よろしく伝えてください。」・ピレモンへの手紙1:2-「姉妹アツピヤ、私たちの戦友アルキポ、ならびに、あなたの家にある教会へ。」)聖書に受けるより与える者が幸いであり、さらに豊かに与えられる祝福の近道である事をともに覚えていきましょう。

愛するクリスチャンプレイズチャーチの信仰の家族のみなさん！今は、コロナ禍の中で、特に緊急事態宣言の中で、家の教会の集まりが通常通りは難しいかも知れませんが、しばらく直接集まるのが難しくても、オンラインでも、お互いかえりみたり、連絡したり、個人的にあつたり、祈りで支え合うことで引き続き繋がっていきましょう。主の教会を仕えることはとつても素晴らしい姿です。クリスチャンプレイズ教会の全夫婦と家庭がこれからも主に喜ばされ、神の愛があふれる家の教会のような家庭となりますようにお祈り申し上げます。

今日のほう一つの本文ローマ人への手紙16章4節には、使徒パウロは後にローマに戻っているアクラとプリスカ夫婦に挨拶しながら、この夫婦は“キリスト・イエスにあって私の同労者であり、二人は、私のいのちを救うために自分のいのちを危険にさらしてくれました。彼らには、私だけでなく、異邦人のすべての教会も感謝しています。”と言います。これは決して大げさの表現ではないと思います。コリントの後、パウロはエペソの方に移った時、使徒の働き19章で見ると、エペソでアルテミス神殿の模型を作っていた銀細工人(ぎんざいくにん)のデメテリオによる暴動(ぼうどう)が起こり、陰謀(いんぼう)を企(くわだ)て、パウロを殺そうとした時、このアクラとプリスカ夫婦は危険にさらされるのを知っていながら、自分たちが持っているすべてを用いてパウロの命を守ったようです。そんなパウロは自分のため命を、全てをかけて守り、助けてくれたアクラとプリスカの愛を一生涯どう忘れることができるでしょうか。パウロだけではありません！今日の本文使徒の働き18章24節-26節を見ると、エペソでアポロという人を神の福音を語り、宣べ伝える伝道者として相応しく整えられるように助け、協力しました。そして、彼らでなく、異邦人のすべての教会もこのアクラとプリスカ夫婦に感謝しているとパウロは伝えています。パウロが、アポロ、そして、他の教会にいる人々まで助け、仕えたその愛の献身と協力は、全世界の人々にキリストの愛と救いの福音が伝えられ、主の教会が建てられるようになりました。実はその裏にこのプリスカとアクラ夫婦の献身的な愛と協力があつた事！どれほど美しい証でしょうか。

一人の男、一人の女！がキリストにあって一つの体になる、一つの夫婦になる事には、共に愛と犠牲を払いながら協力し合い、仕え合う事が前提されています。キリストの体なる教会の中で我々が共に集まり、共に一つの神の家族になる事には単なる交わり合うだけではなく、神の御国を広げる為、多くの魂の御救いのために、福音を宣べ伝えるために共に愛の分かち合い、共に仕え合いと共に協力し合える為である事を決して忘れないようにしましょう。

神の国は一人の英雄ではなく、多くの同労者たち、主にある兄弟姉妹、神の家族の支えと祈り、愛と協力により、広げて下さる事を信じます。アーメン！

アクラとプリスカ夫婦はパウロの宣教の同労者たちでした。パウロが行くところ、いつもこの夫婦が先にいました。コリントにおいても、エペソにおいても、ローマにおいても彼らはいつもパウロの道を、つまり福音宣教の道を備え、ともに協力し仕えてくれた欠かせない存在でした！パウロのように表に出される人もいれば、アクラ夫婦のように陰に目立たなかったけど、実際神の御國で欠かせない人たちも聖書にたくさん書かれています！我々はこのような人々を注目しなければなりません。神様の国はこれらがともに交えて、その力を発揮していくからです。

アクラプリスカ夫婦は、同じところを一緒に見つめながら、その手足と心を合わせて共にする夫婦でした。プリスカとアクラ夫婦はまさにキリストを中心とした夫婦と家庭の姿でした。願わくはクリスチャンプレイズチャーチの全信仰の家族、夫婦も、今日キリストを中心としたアクラとプリスカ、プリスカとアクラ夫婦、家庭のように、みなさんの全家が教会のようにこれからも益々神に用いられ、祝福されてともに仕えていけます様に心からお祈り致します。アーメン！

